

1 調査名称：泉大津市内における道路整備方針策定業務委託

2 調査主体：泉大津市

3 調査圏域：京阪神都市圏

4 調査期間：平成 26 年度

5 調査概要：

泉大津市の道路整備に係る問題や課題を把握し、泉大津市都市計画マスタープランなど関連する計画と整合のとれた泉大津市の道路整備に関する将来ビジョンを検討し、道路整備施策の優先順位や整備費用などを考慮した道路整備プログラムを策定する。

検討する項目は以下のとおりとする。

- (ア) 社会・経済活動の現状
- (イ) 道路整備に関連する計画や主要プロジェクト
- (ウ) 道路・交通の現状
- (エ) みちづくりに対する意見・要望
- (オ) 道路・交通が抱える課題
- (カ) 道路整備の方向性
- (キ) 道路整備プログラムの策定

<調査概要>

1 調査名：泉大津市内における道路整備方針策定業務委託

2 報告書目次：

第1章	はじめに	1
1-1	道路整備方針策定の目的	1
1-2	本方針の位置づけ	2
1-3	対象路線	3
1-4	報告書の構成	4
第2章	社会・経済活動の現状	5
2-1	人口減少・少子高齢化時代の到来	6
2-2	繊維業の衰退と臨海部の開発による産業構造の変化	7
2-3	大阪市や堺市のベッドタウン	8
2-4	徒歩や自転車移動が目立つ市内移動	9
2-5	高い鉄道利便性	10
2-6	周辺他市に比べて少ない緑化空間	11
第3章	道路整備に関連する計画や主要プロジェクト	12
3-1	南部大阪 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 (都市計画区域マスタープラン)	14
3-2	第4次泉大津市総合計画	15
3-3	泉大津市都市計画マスタープラン	16
3-4	泉大津市地域防災計画	17
3-5	道路のバリアフリー整備計画	18
3-6	泉大津市第2次環境基本計画	19
3-7	泉大津市中心市街地活性化基本計画	20
3-8	みどりの風促進区域(大阪府)	21
3-9	通学路安全推進事業(大阪府)	22
3-10	実施している主要なプロジェクト	23
第4章	道路・交通の現状	29
4-1	道路整備状況	30

4-2	混雑する幹線道路網.....	31
4-3	市内2か所に存在する主要渋滞箇所.....	32
4-4	鉄道の高架化による東西交通の円滑化.....	33
4-5	臨海部の開発に伴い増加が予想される交通量.....	34
4-6	内陸部の将来的な交通量の減少（東西軸）.....	35
4-7	内陸部の将来的な交通量の減少（南北軸）.....	36
4-8	歩行者・自転車を重視した道路空間の創出.....	37
4-9	多発する幹線道路の死傷事故.....	38
4-10	市域全体で多発している自転車関連事故.....	39
4-11	安全が確保されていない通学路.....	41
第5章 みちづくりに対する意見・要望.....		42
5-1	回答者の個人属性（性別・年齢）.....	44
5-2	現在の道路整備状況に対する満足度.....	45
5-3	現在の道路整備に対する総合満足度.....	51
5-4	将来の道路整備に対する重要度.....	52
5-5	将来の道路整備に対する総合重要度.....	54
5-6	通行危険箇所の抽出.....	55
5-7	自由意見の抜粋.....	56
第6章 道路・交通が抱える課題.....		57
6-1	ユニバーサルデザインの整備ニーズへの対応.....	58
6-2	歩行者・自転車利用者の快適な通行環境の整備.....	58
6-3	緑ある心地よい公共空間の形成.....	59
6-4	道路混雑の解消.....	59
6-5	増大する産業関連車両（大型車）への対応.....	59
6-6	安全な道路網の構築.....	60

第7章 道路整備の方向性	61
7-1 暮らしやすいまちの実現に向けたみちづくり	62
7-2 交通利便性向上の実現に向けたみちづくり	66
7-3 産業活動を支援するみちづくり	73
7-4 安全・安心なまちの実現に向けたみちづくり	75
7-5 路線別整備施策の検討	84
第8章 道路整備プログラムの策定	125
8-1 道路整備施策の対象路線	126
8-2 道路整備施策の優先順位	127
8-3 道路整備プログラム	131
3 調査体制：該当なし	
4 委員会名簿等：該当なし	

<調査成果>

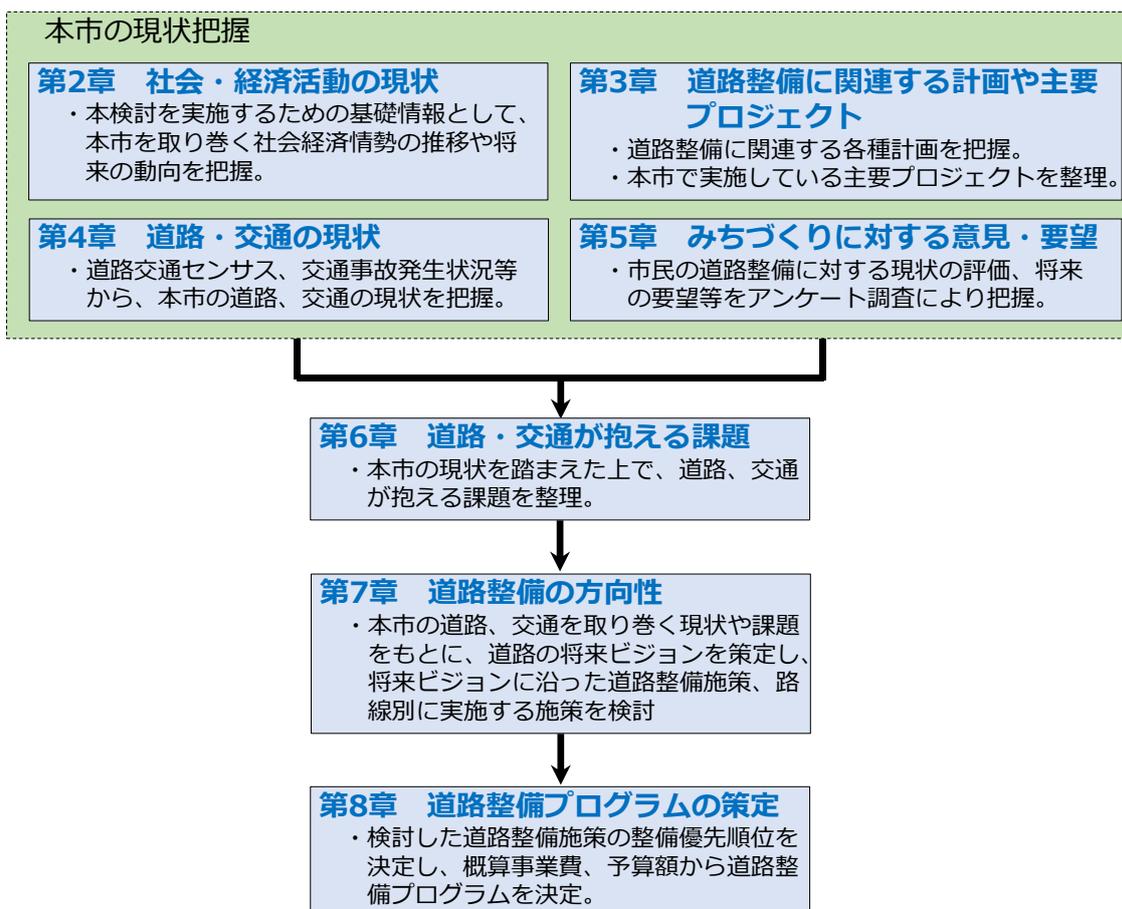
1 調査目的

少子高齢化に伴う人口減少時代の本格的な到来や地球温暖化などの環境問題、多様化するニーズなど、社会・経済状況が大きく変化する中で、今後の道路整備については、再評価を通じて、効率的に進める必要がある。

また、本市においては、歩行者・自転車・自動車が共存できる安全な交通体系の再構築を目指している。

本業務は、泉大津市域において、道路の現状を把握した上で、自動車利用による視点のみならず、歩行者自転車利用者の視点にも立ち、地域の課題や特性、ニーズを反映した道路整備の基本となる道路整備方針（道路整備プログラム）を立案することを目的とする。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

1. 社会・経済活動の現状と課題

泉大津市の社会・経済等の現状について下表のとおり把握した。

キーワード	把握内容
人口減少・少子高齢化時代の到来	・平成19年の78,454人をピークに減少に転じており、今後さらに人口減少及び少子高齢化が進行すると予測。
繊維業の衰退と臨海部の開発による産業構造の変化	・繊維業の事業所数や製造品出荷額の衰退が著しく、臨海部の開発が進むなど産業形態が大きく変化。
大阪市や堺市のベッドタウン	・通勤・通学に伴う移動では市内への流入に比べて市外（特に大阪市、堺市）への流出が多い。
徒歩や自転車利用が目立つ市内移動	・コンパクトで平坦という地理的特性。 ・市内の移動は徒歩と自転車利用で7割以上を占める。 ・鉄道駅までの移動も徒歩、自転車利用が7割以上を占める。
高い鉄道利便性	・南海本線の3駅（泉大津駅、松ノ浜駅、北助松駅）とJR阪和線の和泉府中駅（和泉市）が存在。 ・駅勢圏の人口カバー率が約7割。
周辺他市に比べて少ない緑化空間	・一人あたりの都市公園面積や沿道緑化率は、周辺他市町に比べて低い。

2. 道路整備に関連する計画や主要プロジェクト

泉大津市の道路整備に関わる将来計画、関連計画を整理した。以下に関連計画の特に道路整備に関わる計画、方針を整理する。

計画名・策定者		道路・交通に関して示された方向性等	
上位計画	南部大阪 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 (都市計画区域マスタープラン)	大阪府	「阪神港や関西国際空港などへのアクセス強化」、「都心部の慢性的な渋滞を緩和」、「バイパス整備や交差点改良により効率的なネットワーク形成」、「歩行者・自転車空間の確保やバリアフリー化」
	第4次泉大津市総合計画	泉大津市	「徒歩や自転車で安全、快適に移動できる道路網」、「道路、橋梁等の適切な維持管理」、「安全な道路網」
基本計画	泉大津市都市計画マスタープラン	泉大津市	「歩行者・自転車・自動車が共存できる安全な交通体系」、「東西方向の交通体系の強化」、「潤いのある道路」、「ユニバーサルデザイン化」
	泉大津市地域防災計画	泉大津市	「避難路の指定」
	道路のバリアフリー計画	泉大津市	「災害時の避難場所への経路、鉄道駅へのアクセス道路」
	泉大津市第2次環境基本計画	泉大津市	「バリアフリー整備」、「地域軸の整備」、「自転車通行区域の整備」、「道路植樹帯の整備」
	泉大津市中心市街地活性化基本計画	泉大津市	重点計画「道からのまちづくり」の中核事業として(都)泉大津駅前通り線整備事業を指定。
その他計画・事業	みどりの風促進地域	大阪府	(主) 富田林泉大津線、(一) 堺阪南線、(都) 泉大津駅池浦線が指定。
	通学路安全推進事業	大阪府	通学路安全対策関係機関連絡会議を設置、緊急合同点検、対策の実施。

プロジェクト名		概要
主要プロジェクト	南海本線(泉大津市)連続立体交差事業	道路交通の混雑緩和や踏切における事故や渋滞の解消、および鉄道によって分断されていた東西市街地の機能を一本化し、魅力ある街づくりを図る事業。
	泉大津駅東地区第一種市街地再開発事業	泉大津駅東地区に都市機能、商業業務機能、文化情報機能の集積を図るとともに、都市空間の創造と市街地住宅の整備並びに道路などの公共施設整備を行い、土地の高度利用を図る事業(平成6年9月、アルザ泉大津ランドオープン)。
	松之浜駅東地区第一種市街地再開発事業	松ノ浜駅周辺を地域核とした都市基盤の整った魅力あるまちづくりを図る事業(平成12年9月、あすと松之浜ランドオープン)。
	泉大津旧港再開発事業	旧港地区の再開発と環境整備を進め、港湾・物流・生活等の諸機能が調和した新しい港湾都市の形成を図る事業。
	大阪湾圏域広域処理場整備事業(フェニックス事業)	廃棄物処理場の整備による生活環境の保全と、埋立地を活用した地域産業の活性化を図る事業。
	トライポートサザン21(泉北6区総合物流センター構想)	ひと、もの、情報の交流拠点の形成をめざすため、港湾機能、総合的物流機能、交流機能の整備を図る事業。

3. 道路・交通の現状

泉大津市内の道路整備状況や利用状況についての現状把握を行った。結果の概要を下表に示す。

キーワード	把握内容
混雑する幹線道路網	<ul style="list-style-type: none"> 一般道路の交通状況は、南北軸（国道26号、大阪臨海線、堺阪南線）のいずれの路線においても混雑が発生。 主要渋滞箇所として2か所が指定。
鉄道の高架化による東西交通の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> 南海本線（泉大津市）連続立体交差事業により鉄道が高架化により通過時間が短縮されるなど東西交通は円滑化が図られている。
臨海部の開発に伴い増加が予想される交通量	<ul style="list-style-type: none"> 臨海部において大阪湾圏域広域処理場整備事業に伴い、これに関連する交通量が約11倍に増加すると予測。
内陸部の将来的な交通量の減少	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化に伴う人口減少や大規模開発の計画が無いため、内陸部では将来的に交通量が約9%減少すると予測。
歩行者・自転車を重視した道路空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> （都）南海中央線では広幅員の歩道が整備されているほか、南海本線（泉大津市）連続立体交差事業では自転車・歩行者専用道路が整備中であるなど、歩行者、自転車利用者を重視した道路空間が整備されつつある。
多発する幹線道路の死傷事故	<ul style="list-style-type: none"> 死傷事故率（試算値）が全国平均を上回る路線が（一）堺阪南線、（主）泉大津美原線（新）等、4路線存在。
市域全体で多発している自転車関連事故	<ul style="list-style-type: none"> 自転車関連の交通事故発生率は大阪府内で1位。
安全が確保されていない通学路	<ul style="list-style-type: none"> 指定通学路における歩道の整備率は約3割。 通学路上で児童が関連する交通事故が発生。

4. みちづくりに対する意見・要望

泉大津市民および他市町村在住の市内への通勤通学者を対象とした泉大津市の道路整備に関するWEBアンケートを実施した（サンプル数：279）。

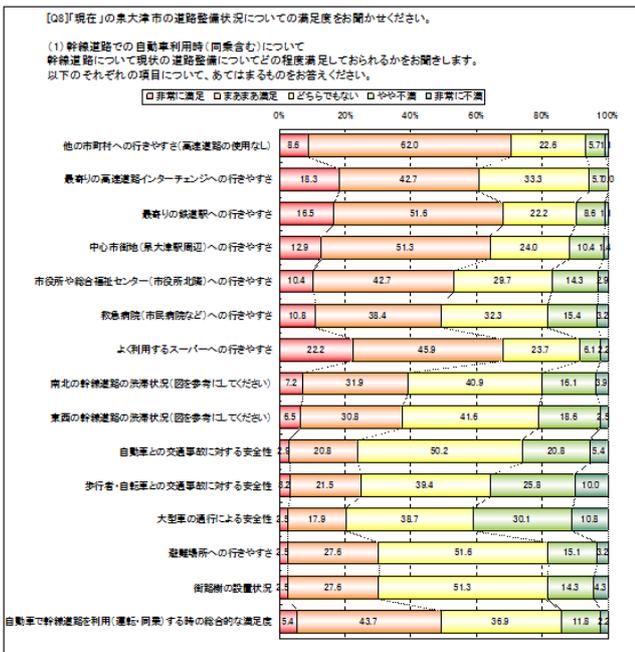
調査内容は現在の泉大津市の道路整備に対する満足度（幹線道路/生活道路、歩行/自転車/自動車利用時別）と将来の道路整備に対する重要度（幹線道路/生活道路）である。

<結果の概要>

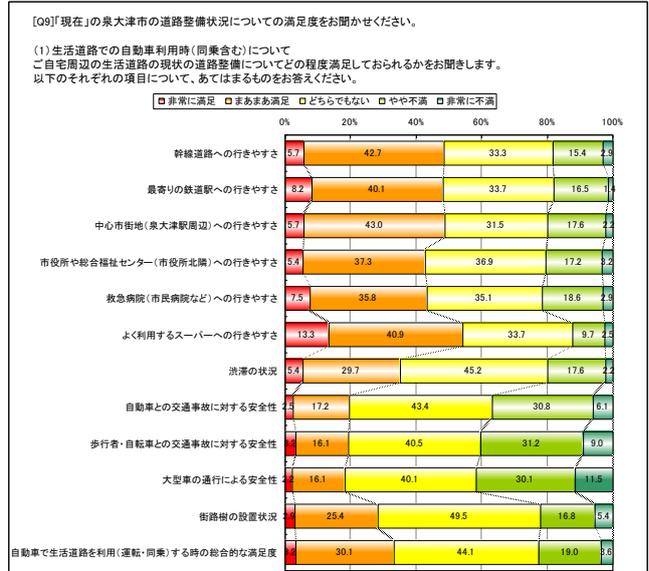
- ・現状の満足度について、近隣施設のアクセス性には評価が高く、交通事故に対する安全性については評価が低い（利用交通手段共通）
- ・将来の整備の重要度について、交通事故対策、避難路の整備、自転車と歩行者の通行帯の分離、通学路の安全確保に対して重要と評価されている。

■ アンケート結果（一部抜粋）

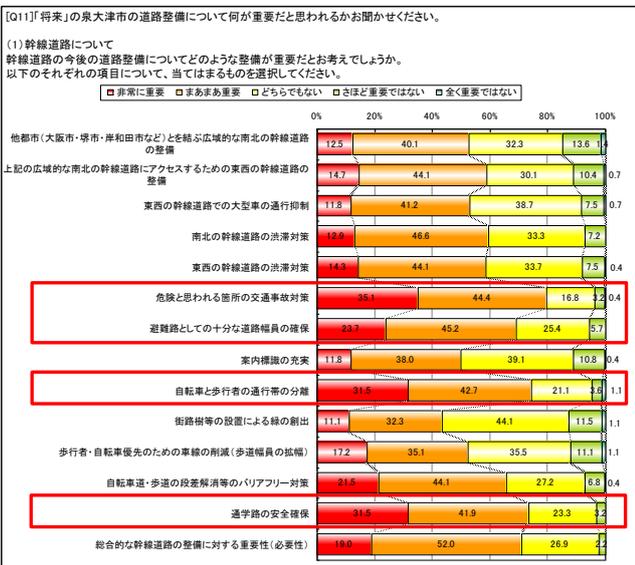
現状の幹線道路（自動車利用時）の満足度



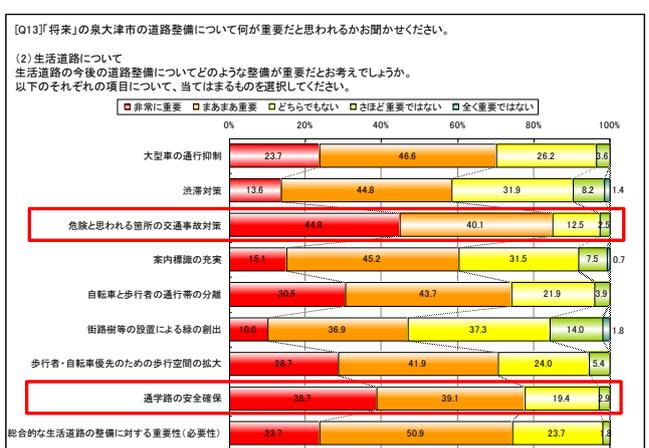
現状の生活道路（自動車利用時）の満足度



幹線道路の整備についての重要度



生活道路の整備についての重要度



5. 泉大津市の道路・交通が抱える課題

上記検討を踏まえ、泉大津市の道路、交通が抱える課題を下記の通り整理した。

(1) ユニバーサルデザインの整備ニーズへの対応

本格的な少子高齢化社会の到来に向けて、泉大津市都市計画マスタープランではまちづくりの基本目標のひとつに「くらしやすさを大切にするまちの実現」を掲げ、高齢者をはじめ、障がい者や外国人などあらゆる市民にとってくらしやすいまちを創造することを目指している。道路整備においても、バリアフリー整備や公共サインの設置等によるユニバーサルデザインの整備が課題である。

(2) 歩行者・自転車利用者の快適な通行環境の整備

平坦でコンパクトな地理的特性から、市内の移動手段や鉄道駅への移動手段として徒歩や自転車の利用が多くみられるが、現在の道路整備状況は歩行者、自転車、自動車が錯綜している箇所が多く、市域全体で自転車に関連する交通事故が発生しているなど、歩行者や自転車利用者が快適に通行できる状況とはなっていないことから、歩行者・自転車利用者を重視した快適な通行環境の整備が課題として挙げられる。

(3) 緑ある心地よい公共空間の形成

沿道緑化率は周辺他市に比べて低く、一人当たりの都市公園面積についても、都市公園法による市街地の面積標準を下回っていることから、心地よい公共空間形成として沿道緑化が課題として挙げられる。

(4) 道路混雑の解消

幹線道路では、混雑区間を多数有していること、主要渋滞箇所が2か所指定されているなど、自動車交通に対して十分な幹線道路網が整備されている状況にはない。ただし、内陸部における自動車交通は今後減少すると予測されていることから、将来の交通量の減少を考慮に入れた「道路混雑の解消」が課題として挙げられる。

(5) 増大する産業関連車両（大型車）への対応

臨海部の開発に伴い、将来（2030年）の産業関連車両（特に大型車）の交通量は大幅に増加することが予測されている。将来的な交通量増加に伴い他の市街地幹線道路に大型車が流入することが懸念されるため、増大する産業関連車両（大型車）への対応が課題として挙げられる。

(6) 安全な道路網の構築

泉大津市総合防災マップでは南海トラフ巨大地震により引き起こされる津波により、
(一) 堺阪南線以西が浸水するという被災予測が公表されており、津波避難目標を南海本線以東と設定している。

また、交通事故の発生状況を見ると、幹線道路は市内全域で交通事故が発生しており、複数の路線で死傷事故率が全国平均を上回っている状況である。さらに、自転車関連の交通事故が多発しており、対策が急務となっている。

さらに、生活道路を中心とした指定通学路では歩道整備率が低く、通学路上での児童の交通事故が発生しており、通学児童の安全が確保されている状況ではない。

以上のような現状から、災害や事故に対して安全安心な道路網の構築が課題である。

6. 道路整備の将来ビジョン

現状と課題を踏まえ、泉大津市の道路整備の方針（将来ビジョン）として以下の通り整理し、それぞれに該当する道路整備施策を検討した。また、路線別に必要な道路整備市区の検討を行った。

(1) 暮らしやすいまちの実現に向けたみちづくり

少子高齢化時代の到来に備えるユニバーサルデザインの整備や、地理的特性を活かした歩行者、自転車が快適に移動できる道路環境づくり、みどりある道路整備などを行っていく。

<道路整備施策>

- ・バリアフリー整備
- ・公共サインの設置
- ・自転車通行帯の整備
- ・歩行者優先の道路整備
- ・沿道緑化

(2) 交通利便性向上の実現に向けたみちづくり

都市計画道路の整備や主要渋滞箇所の対策等により、幹線道路の混雑解消を目指す。

<道路整備施策>

- ・交通円滑化に資する道路整備

(3) 産業活動を支援するみちづくり

臨海部の開発によって増加が予想される産業関連車両（特に大型車両）に対し、円滑な走行空間を確保する道路整備、沿道環境に配慮した道路整備を行っていく。

<道路整備施策>

- ・産業支援に資する道路整備
- ・沿道環境に配慮した道路整備

(4) 安全安心なまちの実現に向けたみちづくり

地震による津波への備え、増加傾向にある交通事故への対策、通学路の安全確保により、市民が安心安全に暮らせる道路環境を整えていく。

<道路整備施策>

- ・津波災害に備えた道路整備
- ・交通事故対策（幹線道路）
- ・交通事故対策（生活道路）
- ・通学路の安全確保

7. 道路整備プログラムの策定

市道を対象として、本市の方針や住民ニーズを評価指標として、道路整備施策の優先順位を決定し、概算事業費を踏まえ、今後の整備スケジュールを定める道路整備プログラムを策定した。

